

# 2024年度 第2四半期決算説明会

(2024年4月～2024年9月)

開催日：2024年11月20日

(東京都文京区小石川一丁目4番1号)

ジオスター株式会社

# 目次



1. 2024年度上期決算概要(P3~P13)
2. 2024年度業績予想(P14~P16)
3. 参考資料(P17~P27)

# 1. 2024年度上期決算



- ・2024年度上期の事業環境 ..... P4
- ・2024年度上期決算の概況 ..... P5
- ・上期連結決算概要 ..... P6
- ・受注高・受注残の推移 ..... P7
- ・連結貸借対照表概要 ..... P8
- ・連結主要経営指標 ..... P9
- ・上期キャッシュフローの概要 ..... P10
- ・設備投資・減価償却の推移 ..... P11
- ・2024年度・剰余金の配当 ..... P12
- ・配当金の推移 ..... P13

- 土木業界については、公共投資は堅調に推移している。

但し、以下の点は引き続き注視が必要。

- 大型セグメント案件の掘進時期が不透明。
- 鉄筋、セメントをはじめとする諸資材価格の高止まり、人手不足による人件費上昇、2024年問題を契機とした物流費の上昇及びドライバー不足。

# 2024年度上期決算の概況



## 2024年度上期は増収減益

2024年度上期の売上高は、セグメント製品は減少したものの、RC土木製品が増加したことにより増収となった。営業利益及び経常利益は、セグメント製品の利益率低下等により減益となる。

## 2024年度上期の対応

大型セグメントのみならず中小セグメントの受注・生産量の積み増しに加え、RC土木製品の受注拡大に努めると共に、徹底した原価低減の諸施策を進めた。

# 上期連結決算概要



セグメント製品の売上高が減少したものの、RC土木製品の売上高が増加したこと等により、売上高117億37百万円(前年同期比7.7%増)と増加した。一方、利益については、セグメント製品の利益率低下等により、営業利益6億5百万円(前年同期比10.3%減)、経常利益6億18百万円(前年同期比10.1%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は3億97百万円(前年同期比12.6%減)と減益となった。

(単位:百万円)

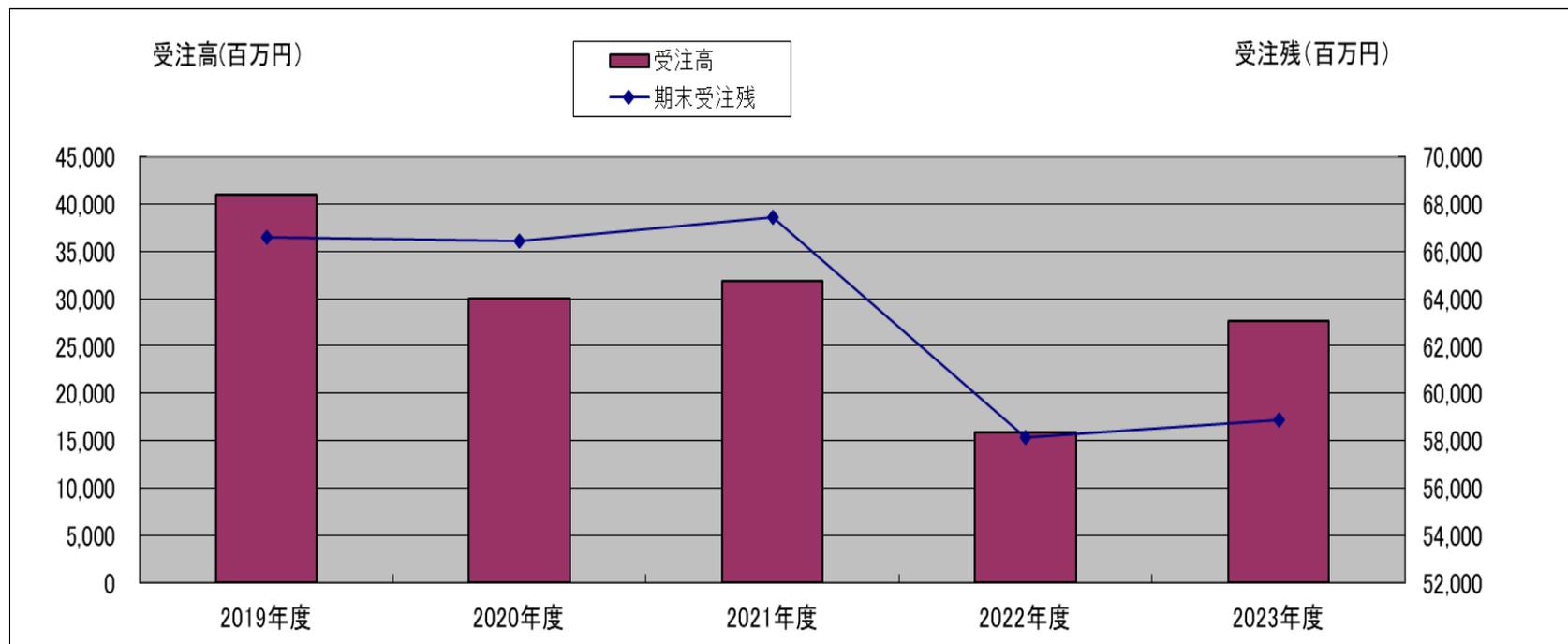
	前中間会計 期間実績 A	当中間会計 期間実績 B	前期比 C=B-A	増減率 C/A	2024年度 中間会計期間 業績予想公表値
					2024年 5月15日
売上高	10,894	11,737	843	7.7%	12,800
営業利益	675	605	△ 69	△ 10.3%	630
経常利益	687	618	△ 69	△ 10.1%	650
特別損益	△ 6	△ 5	1	—	—
親会社株主に帰属 する中間純利益	455	397	△ 57	△ 12.6%	440

# 受注高・受注残の推移



(単位:百万円)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
受注高	41,010	29,958	31,877	15,916	27,687
期末受注残	66,622	66,431	67,448	58,128	58,906



# 連結貸借対照表概要



(単位:百万円)

科 目	前会計 年度	当中間会 計期間	増減額	科 目	前会計 年度	当中間会 計期間	増減額
	A	B	B-A		A	B	B-A
現金・現金同等物	5,142	3,410	△ 1,731	支手・買掛金・未払	7,681	4,679	△ 3,001
受手・売掛金	10,027	8,287	△ 1,739	長短借入金	330	330	0
電子記録債権	249	1,164	915	その他	5,436	6,001	564
たな卸資産	8,718	10,184	1,466				
未収入金	2,294	276	△ 2,017				
その他	290	520	230	負債合計	13,448	11,010	△ 2,437
流動資産合計	26,722	23,844	△ 2,877	自己資本	23,318	23,205	△ 112
有形固定資産	7,418	7,899	481	利益剰余金	14,789	14,843	53
投資有価証券他	2,626	2,471	△ 154	その他有価証券 評価差額金	789	628	△ 161
				その他	7,739	7,734	△ 5
固定資産合計	10,044	10,370	326	純資産合計	23,318	23,205	△ 112
資産合計	36,766	34,215	△ 2,550	負債純資産合計	36,766	34,215	△ 2,550

# 連結主要経営指標



	前中間期	前年度	当中間期
自己資本当期純利益率 ( R O E )	2.1%	4.9%	1.7%
総資産経常利益率 ( R O A )	2.0%	5.2%	1.7%
営業利益率	6.2%	6.8%	5.2%
D/E レ シ 才	0.01倍	0.01倍	0.01倍
自己資本比率	67.1%	63.4%	67.8%
有利子負債残高	330百万円	336百万円	330百万円
期末総資産	33,297百万円	36,766百万円	34,215百万円
期末自己資本	22,328百万円	23,318百万円	23,205百万円

# 上期キャッシュフローの概要



棚卸資産の増加額(△1,466百万円)等の支出要因から営業CF7.2億円の支出となる。また、有形固定資産の取得等の投資CF6.6億円の支出により、フリーCFは13.8億円の支出となる。さらに、配当金支払3.4億円により、現金同等物は前連結会計年度末に比17.3億円減少し、34.1億円となる。

(単位:百万円)

	前中間連結 会計期間 A	当中間連結 会計期間 B	増減額 B-A
税金等調整前中間純利益	681	612	△ 68
減価償却費	336	331	△ 5
法人税	△ 180	△ 218	△ 38
その他営業キャッシュフロー	△ 1,103	△ 1,447	△ 344
営業キャッシュフロー(a)	△ 266	△ 722	△ 455
投資キャッシュフロー(b)	△ 261	△ 661	△ 400
フリーキャッシュフロー(a+b)	△ 527	△ 1,383	△ 856
借入金等 調達・返済	-	-	-
支払配当	△ 187	△ 344	△ 157
その他	△ 2	△ 3	△ 1
現金同等物 増減額	△ 717	△ 1,731	△ 1,013
現金同等物 期首残	7,954	5,142	△ 2,812
現金同等物 期末残	7,236	3,410	△ 3,826

# 設備投資・減価償却の推移

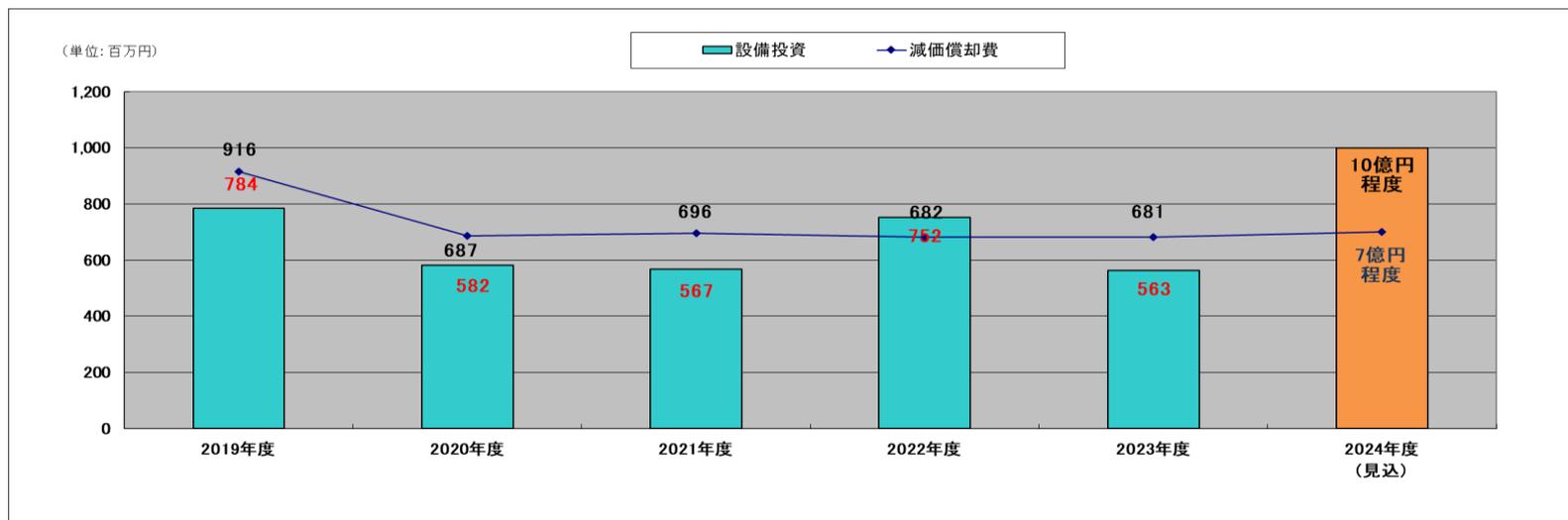


2023年度は、5億63百万円の設備投資を実施いたしました。その主なものは、橋本工場のプロジェクト対応による設備投資となります。

(単位:百万円)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度 (見込)
設備投資	784	582	567	752	563	10億円 程度
減価償却費	916	687	696	682	681	7億円 程度

(注) 2020年度より有形固定資産の減価償却方法を定率法から定額法に変更。



# 2024年度・剰余金の配当



剰余金の配当につきましては、当社の事業特性から売上高が下期に集中する季節要因があり、収益状況から期末配当の1回とすることが財務上も適切であると考えておりますが、2025年3月期においては、当該季節的変動の影響が少ないことから、株主各位に対する利益還元  
の機会を充実させるため、中間期末に1株当たり3円配当を実施すること  
と致しました。また、期末の配当予想についても1株当たり3円とし、中間  
配当と合わせて年間配当予想6円と致します。

## 【利益配分に関する基本方針】

当社グループは適正な利潤の確保に努め、健全な発展と持続性を目指し、収益状況に対応した適性な配当維持に努力することを基本方針といたします。また内部留保を充実し、企業体質の強化と将来の事業展開に備えたいと考えております。

収益状況に対応した適正な配当の指標として

⇒連結配当性向年間30%程度を目安とします。

# 配当金の推移



決算年月	2019年 3月	2020年 3月	2021年 3月	2022年 3月	2023年 3月	2024年 3月	2025年 3月
1株当たり配当(円)	19.50	5.00	8.50	14.00	6.00	11.00	6.00
(内中間配当額)	(5.00)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(3.00)



## 2. 2024年度業績予想



- ・2024年度の概要 ..... P15
- ・2024年度業績予想 ..... P16

# 2024年度の概要



## ●事業環境

売上高は増加見込みであるものの、主力であるセグメント製品の競争は依然として厳しい状況であり、価格競争による収益率の低下と原材料価格・人件費・物流費等のコストアップにより、営業利益・経常利益は減益の見込み。

## ●対策

- ・主力のセグメント製品の受注・生産を積み増し、トップシェア維持。
- ・土木製品についても舗装版等差別化製品の受注拡大を図る。
- ・新規商品の開発・技術提案力の強化により、収益の確実な貢献を図る。
- ・徹底的な原価低減等の諸施策の継続実施。

# 2024年度業績予想



通期の連結業績見通しは、売上高294億円(前期比8億43百万円増)、営業利益9.7億円(前期比70百万円減)、経常利益10.0億円(前期比69百万円減)となる見通し。  
親会社株主に帰属する当期純利益は6.4億円(前期比58百万円減)となる見通し。

(単位:百万円)

	2023年度				2024年度				差 異		
	実 績				業績予想				前年 上期 対比	2024年 上・下 対比	通期 対比
	上期	下期	通期 A	比率	上期 実績	下期 見通し	通期 B	比率			
	①	②			③	④			③-①	④-③	B-A
売 上 高	10,894	16,016	26,910	100.0%	11,737	17,663	29,400	100.0%	843	5,926	2,490
営 業 利 益	675	1,156	1,831	6.8%	605	365	970	3.3%	△ 69	△ 240	△ 861
経 常 利 益	687	1,165	1,852	6.9%	618	382	1,000	3.4%	△ 69	△ 236	△ 852
親会社株主に 帰属する 当期純利益	455	647	1,102	4.1%	397	243	640	2.2%	△ 57	△ 154	△ 462
配 当 ( 円 )	0.00	11.00	11.00	-	3.00	3.00	6.00	-	3.00	0.00	△ 5.00

# 参考資料



- ・今後予定される主なプロジェクト
- ・ジオスターの地下空間  
セグメント製品  
土木製品
- ・トピックス

# 今後予定される主なプロジェクト



## 1. 石神井川上流第一調節池

概要: 大雨による洪水に対応する地下トンネル式調節池

区間: 西東京市南町～都立武蔵野公園までを結ぶ地下トンネル

延長: 1.9キロ

完成予定: 2033年

## 2. 善福寺川上流調節池

概要: 大雨による洪水に対応する地下トンネル式調節池

区間: 杉並区成田西3～西荻北4付近を結ぶ地下トンネル

延長: 5.8キロ

完成予定: 2035年

### 3.有楽町線延伸

概要:有楽町線の豊洲駅から住吉駅までの地下鉄延伸工事

延長:4.8キロ

完成予定:2030年代半ば(開業)

### 4.南北線延伸

概要:南北線の白金高輪駅から品川駅までの地下鉄延伸工事

延長:2.5キロ

完成予定:2030年代半ば(開業)

### 5.多摩川トンネル

概要:国道357号東京湾岸道路

東京都大田区羽田空港と川崎市川崎区浮島を結ぶ道路用シールドトンネル

区間:大田区羽田空港～川崎区浮島

延長:3.4キロ

完成予定:未定

## 6.淀川左岸線延伸部

概要：阪神高速2号豊崎出入口から近畿自動車道と第二京阪道路の門真JCTに接続する高速道路計画

区間：豊崎IC ～門真JCT

延長：8.7キロ

完成予定：2032年

## 7.京奈和自動車道 大和北道路

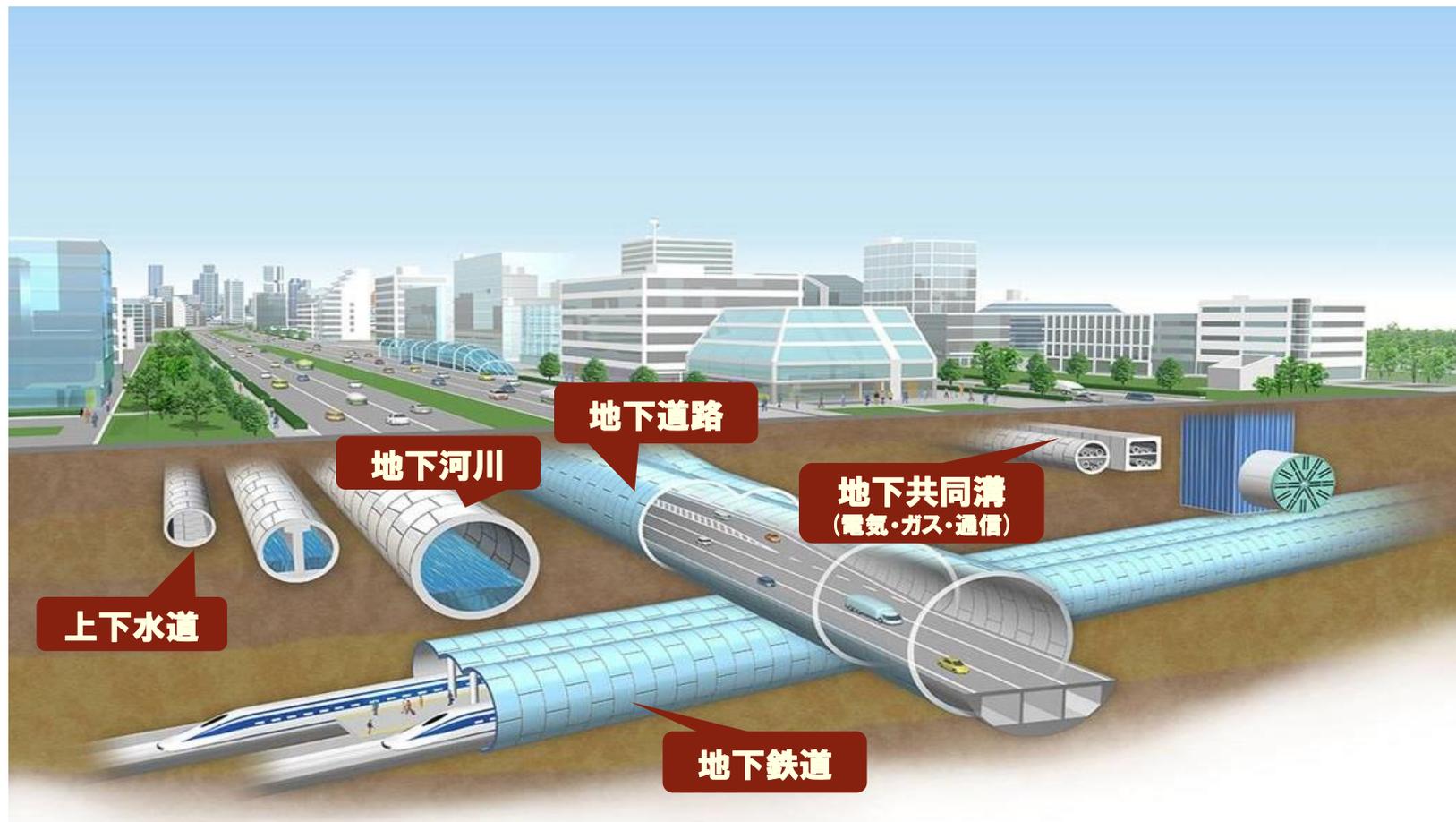
概要：京奈道路の木津IC付近から西名阪自動車道までの区間延長約12.4キロの道路

区間：奈良県奈良市歌姫町～奈良県大和郡山市横田町

延長：12.4キロ(シールド6.1キロ、高架6.3キロ)

完成予定：未定

# ジオスターの地下空間



# セグメント製品



- RCセグメント
- スチールセグメント

- CPセグメント
- HCCPセグメント
- NMセグメント



# 土木製品



# 土木製品



- ボックスカルバート
- アーチカルバート
- L型部材
- 共同溝
- 防潮堤
- モジュラーチ
- ジオウエアボックス
- 矢板
- スラブ



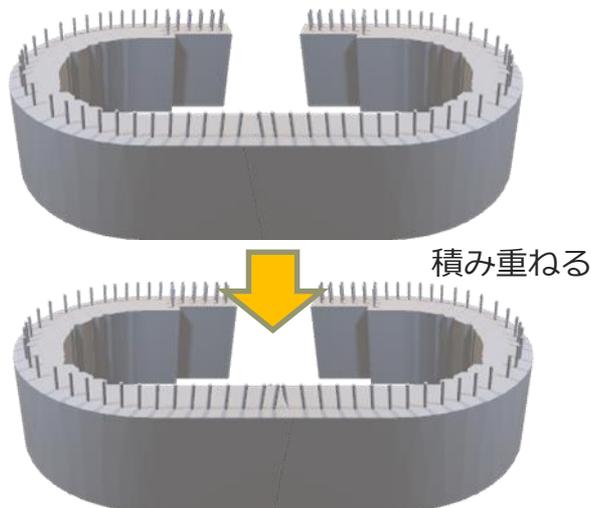
# トピックス

## 淀川大堰閘門門柱部でのプレキャスト採用事例



淀川大堰閘門(おおぜきこうもん)とは、淀川大堰によって分断された大阪湾と淀川の間を船が行き来できるようにするための施設です。大阪・関西万博開催までの概成を目指しており、現場での工期短縮を主目的に、閘門門柱部の外周部に当初プレキャスト製品が採用されました。

外周部をプレキャスト化したことで、施工現場で手間のかかる型枠や支保工の省略が可能となりました。また高強度・高品質のプレキャスト部材により高い耐久性と品質を確保することができました。当該プレキャスト製品は部材形状および配筋形状の特殊性から、図面を3D化することで工場での製作検討や管理のしやすさが大幅に向上し、その結果高い製作精度を確保することができました。更に、門柱部分は工事が進捗するにつれて高所作業となることから、現場での安全性向上にも寄与したものであると考えられます。



門柱部外周プレキャスト9段積  
内部に現場打ちコンクリート打設



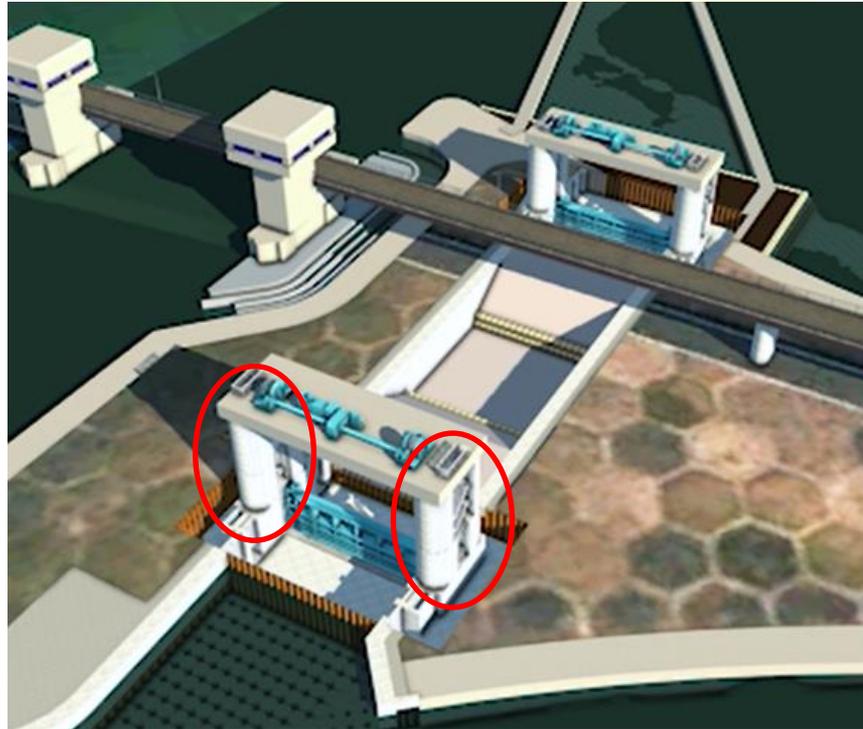
施工途中の状況

# トピックス

## 淀川大堰閘門門柱部でのプレキャスト採用事例



### 閘門門柱部施工イメージ



国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所 HPより  
参照URL : <https://www.kkr.mlit.go.jp/yodogawa/ozeki-komon/>

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、資料作成時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害につきましても、当社は一切責任をおいしません。